kaede カエデ
2009 3 MAR. Vol.23
NPO法人ガーデンを考える会　会報

今月のコラム

業界健全化の方向性

㈱グリーンプラザ　石川 昇

業界メディアは!　最近の花卉園芸業界は私が言うまでも無く、低迷の底が見えない状態でありますが、新聞、雑誌等の花卉園芸業界のメディアは、大きな見出しで、「売れない」「相場が下がる」「指数のダウン」などの大きな報道は私達業界人にとっては、非常にムードが悪くなり、今まで以上に慎重かつ引き締めが考えられ先行きが暗くなります。報道として伝達の必要性は理解できるが、ちいさ目にして頂きたい。

それより明るい報道を大きく、業界でこんな明るい話がありますという事で報道に努力して頂ければと思います。

例えばこんな事実を、新品種の紹介、新しい売り方の成功事例や、北陸のKナーセリーが新店を3月にOpen、九州のHナーセリーは店舗をハイグレードに新装で営業とか、現に明るい話題も多く、我社だけでなく売上額が昨対マイナスとは無縁の店舗が数あるのでは。明暗の二極化現象で、悪いネタがある店舗、市場、生産者の話はさておいて、明るい話題を多く報道に努めていただきたい。業界メディアは業界によって営んでいます。自分の手足を切るような報道は慎んでもらいたい。

COPについて　カーボン.オフセット.プランツ(COP)のアピールが進んでおります。二酸化炭素の吸収に効果的な植物ですが、そのアピールも大事でありますが、逆に害のある植物の除去と正しい指導アドバイス、そして業界ルールが必要なのではないか!

今日、始まったことではないが、海外からの輸入商品について世界で指折りの植物検疫システムの我国であるがゆえに、害虫、病気に対して敏感であり、検疫をパスするために、日本では使用禁止の薬剤散布などの防除が考えられます。

エンドユーザーの所では植物についている薬剤が気化して周辺に、癒すどころか悪い環境を作り出しているのではないか。特に発展途上国から輸入されているバラなどは生育には多くの薬剤なくしての生産はありえなく、BOXを開けた時の悪臭は皆さんもご存知であろう。問題ありそうな植物の出荷までの薬剤散布(トレサビリティ)の適正化を指導し業界のルールづくりの必要性があります。癒しのための植物の購入が、薬害が出てからのルールづくりでは後手になります。輸入食品の二の舞にならないようにしなければいけない。

粗悪品の絶滅　商品が売れなくなり競争が激化すると安売りの店舗が増えて低価格第一主義でEDLP(エブリデーロープライス)の行き過ぎのあまり、品質は二の次となり粗悪品の販売が目に付きます。たとえば出荷鉢物の客土の質。

市販の培養土の品質、形だけの器具類、机上のアイディア商品など実際に栽培するとかなりの高度の技術を持った人でも育成が困難なことが多くあります。新たにガーデニングを始める人達は、手始めに安価の商品でトライすることは常識と思われますが、品質の違いが区別つかない初心者は、そんな商品での育成結果は明らかであり、ガーデニングの難しさを感じ再びの園芸作業が遠のくのです。

植物は環境が適応する所では簡単に成長し、それを人間が手助けしているだけなのです。業界発展のためにも本物志向で粗悪品を取り扱うな!

花育運動　農林水産省、花普及センター、市場協会などが進めている花育運動、幼い時から花や植物を身近にと言う事で、業界にもその意識が向上しておりますが、いまだその普及関連の国家予算は計上されておらず平成22年度には予算化されるかも? との話であります。行政は業界にスローガンを押し付けて、金銭的なバックアップなしで、行政指導しております。どの業界でも普及推進事業には、時間と資金が必要です。そして私達が熱意とスキルアップする事と業界の体質改善を図らなければなりません。花育運動は息の長い投資事業と考えなければならず、即に売上増につながりません。早急に行政の力強いバックアップを感じてなりません。

4月関東地区ワークショップ　4月14日東京、参加者募集

「環境をテーマにしたこれからのエクステリア、ガーデンデザインとは」(仮)

◇主　催　NPOガーデンを考える会 ライフデザイン部会
◇日　時　2009年4月14日(火)15:00～17:30 懇親会 18:00～
◇会　場　リック東京本社(東京都港区・青山ユニマットビル6F)
◇テーマ　「環境をテーマにしたこれからのエクステリア、ガーデンデザインとは」(仮)
◇内　容　第 一 部「CASBEEを活かした提案、活用法」
講師 株式会社 リック　CASBEE推進プロジェクトリーダー　案浦 氏
・CASBEEの概要、活用例などを紹介
・エクステリア、造園業界の活用の考え方 専門店、建材メーカーの取り組み
・CADによる取り組み 建築CADメーカー福井コンピュータとリックの取り組み
第 二 部 パネルディスカッション
「環境をテーマにしたこれからのエクステリア、ガーデンデザインを考える」
司　　会 リック 小松 正幸氏
パネラー　4名
・東邦レオ　営業本部 レゾナントチーム チームリーダー 片山 隆史氏
・エコ・グリーン設計　代表取締役 小林 徹氏
・セキスイエクステリア (未定)
・タカショー　プロユース営業本部 次長 高田 康平氏
◇募　集　40～50名(締切り4月5日、ただし定員になり次第)
◇参加料　会員1,000円、非会員2,000円。懇親会4,000円
◆申込み&問合せはガーデンを考える会事務局(TEL052-571-7911)まで

2月関東ワークショップ

活発な情報が飛び交ったパネラーを囲んでのワークショップ

東西から出席した若手のパネラー
左より佐藤さん、松永さん、稲垣さん、林さん、田中さん

当会では、2月13日、理事会社シモジマさんの会議室(東京都台東区)で「もう一つ、後一歩、まだまだ泥臭い販売戦略を学ぶ勉強会」をテーマに、関東ワークショップを開催しました。
今回のワークショップは、理事の高橋 乃(イーグルサム)さんと佐藤　元一(シモジマ)さんの企画運営で、高橋理事がコーディネーターとなり、東京花壇・佐藤　陽一さん、ハクサンインターナショナル・稲垣　宗徳さん、花ごころ・松永 透さん、ニチカン・林 良樹さん、アップルウェアー・田中 太助さんが話題提供者となって進められました。
パネラー５氏は、各社の第一線で活躍する若手ばかりで、春の見本市に関する情報では野菜関連に対し手ごたえでは関東関西での温度差があること、また元気なガーデンセンターを紹介するなど、活発な情報が飛び交いました。
パネラー各社のPRタイムでは、試作段階の商品が紹介されるなど、参加者だけの新情報もいくつか紹介されました。
その後の会場を変えた名刺・情報交換会でも25名満席の中で熱い話が時間いっぱい繰り広げられ、新鮮な情報交換のうちに終了しました。

エコプロダクツ2008

出展社数20%増、入場者数も6%増

日本最大級の環境展示会「エコプロダクツ2008」が12月11～13日、東京ビッグサイト東1～6ホールで過去最大規模で開かれ、入場者数は前年を6%上回る約17万4千人であった。出展規模は、20%増の785社、出展小間数は28%増の1796小間と年々規模が大きくなり、環境に対する関心が高まっている。小・中・高校長会が協賛していることもあってか、児童、生徒も目立った。

大きくスペースを取っていたのは家電グループで、約1／6を占め、自動車や電力、小売り、建設、学校などあらゆる分野が参加した。

グリーン関係では、農林水産大臣賞を受賞したNTTグリープの「グリーンポテト(屋上サツマイモ水気耕栽培システム)が子どもの人気を集めていた。経済産業省からグリーン・サービサイジング実証事業の認定を受けたプラネットの「アーバングリーンカルチャーサービス―環境に配慮した循環型生産緑化システム―」、大和リースの「グリーンスケープ・トータル・ソリューション」などが注目を集めていた。

ベランダ菜園、温室・リビングガーデン、ベランダキッチンをトータルに生活提案した「ベランダエコからくり」

ニュース

第1回 クラピア緑化研究会・全国大会、67名が参加して盛会に

イワダレソウの改良品種「クラピア」による緑化で地球環境の改善に貢献するクラピア緑化研究会(賀籠六實会長)は2月13日午後、 東京・虎ノ門TKPビジネスセンターにおいて「第1回 クラピア緑化研究会・全国大会」を開催。

大会には、沖縄から東北まで全国から会員29社49名のほか、非会員17社18名および報道関係5社が取材に訪れるなど、クラピア緑化に対する関心の高さが示された。非会員のうち、14社が入会を希望した。クラピアに関してはホームページより。

http://www.eco-cosmo.com/kurapia/index.html

大きな期待が寄せられる「クラピア緑化」大会会場

会員紹介

株式会社 リッチェル

真夏の室内の温度上昇を抑える緑のカーテンを、家庭でも簡単に作れる「緑のカーテンプランター」や、人気の野菜作りで、いちご・ハーブを狙った「ハーベリーポット」、手軽に野菜が作れる「緑のやさいプランター」等々…。

「環境」「食の安心・安全」「食育」をテーマにした新製品が人気です。

お問い合わせ
〒939-0592 富山市水橋桜木136
TEL 076-478-2250　FAX 076-478-2259
URL http:www.richell.co.jp

会員コラム

景観問題ワンスモア

㈱よし与工房　南澤　弘

昨今は地球温暖化の問題に関心が高まり、一頃より景観の問題が忘れられがちになっている様に思われる。

ところで、ここ数年来、山野や自然の風景の中に携帯電話のアンテナがやたらと目立つ様になった。何れもデザイン的な配慮など全く無い異様な形体である。

また、太陽光発電パネルや風力発電の風車なども従来には無かった物で、景観に関わるものである。

さて、景観とは何か、と言う事となると、この概念が出来たのは現代になってからで、それは比較的新しく、ランドスケープの対訳でもある。景観は言うまでもなく自然の姿、自然の風景を価値の原点としての近代的な価値観である。

自然の風景の中に人間が人工物を持ち込む、それによって自然の姿を毀損する、その事を問題にした人間と自然、エコロジーを根底とした価値観である。

近代文明以前の時代にあっても人工物は当然、世界中に存在した。エジプトのピラミッド、ヨーロッパの大聖堂、日本の大仏殿もとてつもない人工物である。しかも、いまも厳然と当然のように存在している。当然、自然の風景と無縁で有るわけでないに拘わらず、景観問題などを寄せ付けない存在価値を持って世界遺産として評価されている。

それはなぜか、私の独断と偏見で言わして頂くならば、それを造るために傾注された人間の知恵と労力のエネルギィーの総量の高さによって、人工物としての姿の価値が高いこと、それと、そこに使われている材料が自然物を加工したものであった事も無関係ではないと思う。

要するところ極めて上等な人工物、“神の創り賜うた自然の風景”に対して失礼に当たらないだけのレベルにあると考えるのはどうだろうか。

近代になって、人工物の鉄で建てられたエッフェル塔は景観物議をかもしたと言われているが、それでも構造剥き出しの建造物ではなく、ヨーロッパの伝統工芸であるロートアイアン技法とデザインが取り入れられている。エイジングと言うものも人工物を自然に溶け込ませる作用がある。

ところで、過去の時代の優れた人工物の殆どは宗教的な建造物であり、それは姿そのものの価値に目的が有ることに注目したい。

いまさら、携帯電話のアンテナを持ち出すまでの無く、現代の人工物は何らかの実用機能性を支えるだけの構築物である、機能的効用性、便利さを支えるだけの、その存在には“姿に目的性”は全く無い、月とスッポンの対比を持ち出すのは世界遺産に失礼であるが、いずれも人間の所業の産物であり、地球の自然の風景の上に存在する事象であり、新たな景観問題として注目していただきたい。

事務局だより

ガーデンを考える会
事務局　TEL 052-571-7911
FAX 052-571-2208

香りのよい日本水仙、何年か前に10球ほど買ってきたのに、今年は100輪以上が咲き、その力強さに驚きます。日陰にも強く、ヨーロッパゴールドの傘の中でも毎年けなげに咲いていて、愛い奴です。